

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	日本語教育センター(国際連携機構)
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2011年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価		
		2011	2012	2013
1. 教育研究組織体制の見直し案を作成する。	教育研究組織体制の見直し案の作成状況 評価基準： A→教育研究組織体制の見直し案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	B	B	
2. 教育内容の情報を内外に発信する方策案を作成する。	教育内容の情報を内外に発信する方策案の作成状況 評価基準： A→教育内容の情報を内外に発信する方策案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	A	A	
3. 優秀な人材育成のための日本語教材・カリキュラム開発に係る教員組織案の策定	教員組織案の策定状況 評価基準： A→教員組織案を策定 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	B	B	
4. 日本語教育の質保証に係る日本語教育研究活動案を作成する。	日本語教育研究活動案の作成状況 評価基準： A→日本語教育研究活動案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	A	A	

☆

2012年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価		
		2011	2012	2013
	→			
	→			

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	現在、本センターがもっている特別契約教員枠で、埋まっていない枠が1つあるが、それを使って常勤講師を1名雇用した。専任教員が専属しない日本語教育センターにあつては、長期的に安定した教育環境を摸索する必要がある。現在、新中期計画（後期）の策定の中で種々検討を重ねている。
目標2	『関西学院大学日本語教育センター紀要』を通じて、本センターの教育実践、内容を公開している。また、2012年度より年二回開催される「関学日本語教育研究会」については、従来クローズドであったが、2012年度よりこれをオープンな形で開催できるようにした。さらに、日本語教育センター通信を年5回発行した。
目標3	2012年2月から3月にかけて東京並びに関西の主立った日本語教育機関（早稲田大学、上智大学、ICU、同志社大学、立命館大学、大阪大学、関西大学の日本語教育機関）において、教育組織、教育体系等についてヒヤリングを行い、それをもとに改善策を検討中である。
目標4	「関学日本語教育研究会」は昨年の決定どおり開催した。また、学生の出席管理、成績管理、また宿題の適正化と自主学習の督励、成績の芳しくない学生に対する個別指導など、より徹底した形で実施中である。さらに、非常勤講師までを含めた講師会を一学期に最低二度開き、教育活動の水準向上を図っている。
備考	